



いのち輝く

川之江南中学校長だより 2024.6.11

市総合体育大会での輝き

5月末から6月第1週にかけて令和6年度四国中央市総合体育大会が開催されました。運動部に所属する者にとって、この市総体を勝ち抜いて県総合体育大会への出場権を勝ち取ることは一番の目標と言っても過言ではありません。その限られた権利の獲得を目指して、出場した市内の選手すべてが全力で競技したと思います。川之江南中学校生も、各会場で熱戦を繰り広げました。そして、団体では、女子バレーボール部、サッカー部（川北との合同チーム）、女子卓球部、男子剣道部、女子剣道部、男子陸上競技部の6チームが優勝、女子ソフトテニス部、女子陸上競技部、女子柔道部、軟式野球部（川北との合同チーム）が準優勝という輝かしい成績を収めました。また、個人では、卓球、柔道、剣道、水泳、陸上競技の各種目でたくさんのお入賞者、および県大会出場権獲得者が生まれています。どの競技もよく頑張りました。

総体前にあった壮行会では、各部が勢いのある決意発表、メリハリのきいた入退場、元気な入場行進で、大変立派な壮行会となりました。最後に歌った校歌は体育館に響き渡る力強い歌声で、感動すら覚える素晴らしいものでした。壮行会をご参観いただいた保護者の方も同じように感じられたのではないのでしょうか。その姿から、市総体での活躍を確信しましたが、その通りの結果になりました。

先日、テレビ番組を観ていて、次のような言葉に出会いました。「チャンピオンが讃えられるのは、負けた側の人たちが本気だったからだ。」NHKの「魔改造の夜」という番組の中で出演者（競技者？技術者？）が発した言葉だそうです。勝者はもちろんですが、敗者も讃えられるべきだという意味だと私はとらえました。試合をすれば、結果として勝者と敗者が生まれてしまいますが、敗れた人もこれまで歩んできた過程と共に讃えられるべきだと思います。

勝つにしろ、負けるにしろ、その後どうしていくかが大事だと思います。県大会の出場権を得た人は、これからの1月半の期間を大切に過ごして、もう一段レベルアップして県大会に臨めるように頑張ってください。次は、市の代表としての出場となります。悔いのない戦いができるように頑張ってください。3年生で、部活動に一区切りがついた人は、次の目標に向かって歩み始めてほしいと思います。1年後の自分の姿を想像しながら勉強にも頑張ってください。

